

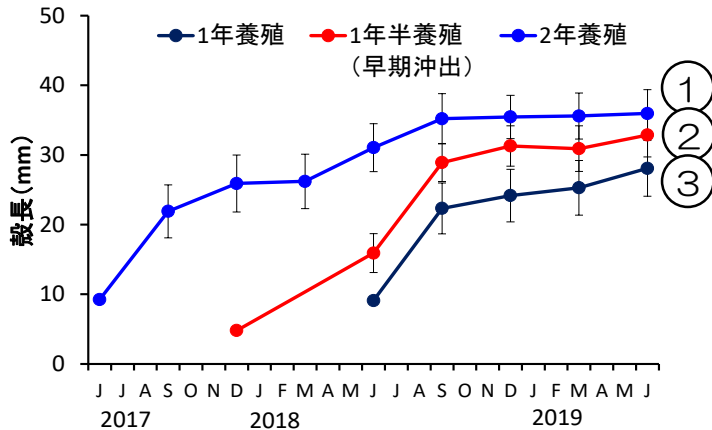


1 スケジュール

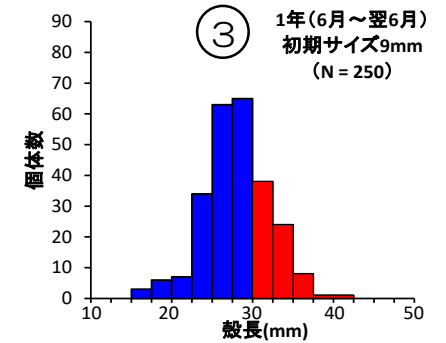
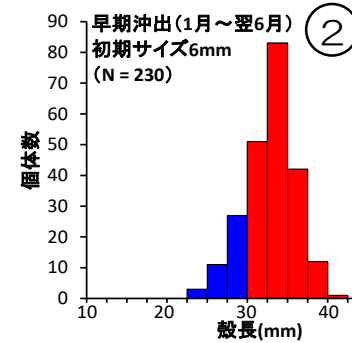
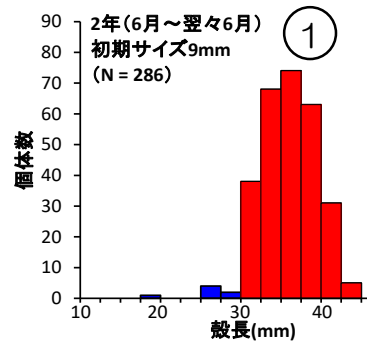
年齢	0歳						1歳						2歳													
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
養殖工程	種苗生産		陸上中間育成 (12月に5mm以上)			沖出	本養成											② 出荷		本養成(1歳出荷時に30mm未満)						① 出荷
			陸上中間育成 (12月に5mm未満)															沖出	本養成							

①2年養殖、②1.5年養殖、③1年養殖

2 アサリの成長



①2年養殖、②1.5年養殖、③1年養殖



- ①2年養殖ではほぼ全てが出荷サイズ(30mm)を達成
 - ②1.5年養殖では約8割が出荷サイズを達成
 - ③1年養殖では多くが出荷サイズに達しない年がある
- 1.5年～2年養殖が必要



3 養殖作業



稚貝の収容（沖だし）



本養成（下左：コンテナを用いた場合）



1年に1回～2回カゴ替えをする



ふるいを使った収穫



4 軽労力化



札幌軟石を用いたアサリの養殖
砂利と軽石を用いた養殖に比べて
水切れが良く軽く感じる。



Cカンを用いた養殖かごの結束作業
結束時間が約1/10になり、作業が
楽になる。



小型筏を用いた陸上での作業
作業を陸上で行うことにより、作業
が楽になる。また、安全に作業が行
える。



5 試算（赤字は丸カゴ2個を座布団カゴ3個に変えた場合*1）

- *1カゴ単価
 ・丸カゴ：836円/個
 ・座布団カゴ：220円/個

収量（2年貝・2段吊り）（2年貝・3段吊り）

1m²あたり7.8kgの収量

→5トンの生産に1,282m²が必要（2年飼育のため）

筏の設備費 4,807,500円*2

*2参考：アサリ垂下養殖マニュアル

→筏の減価償却費 961,500円/年（耐用年数5年）

資材費（カゴ、ロープ） 11,953,368円（6,115,140円）

→資材の減価償却費 2,390,674円/年（1,223,028円/年）（5年使用）

基質費（札幌軟石） 5,769,000円

→基質の減価償却費 384,600円/年（15年使用）

種苗購入費 1,788,390円/年

出荷費用（貝毒検査込み） 1,498,600円/年

単年度経費 7,023,764円（5,856,118円）

収益分岐単価 1,405円/kg（1,171円/kg）

期待収益

単価1,500円→ 475,000円

単価1,200円→ 145,000円

単価1,700円→1,475,000円

単価1,500円→1,645,000円

単価1,900円→2,475,000円

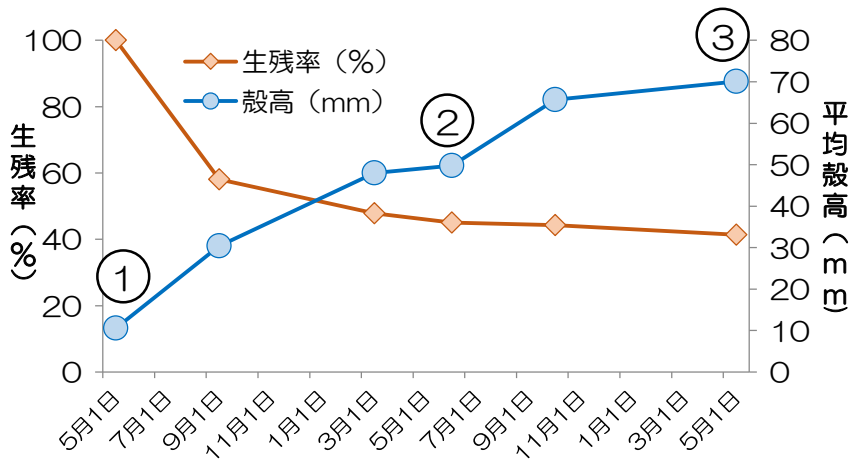
単価1,700円→2,645,000円



1 スケジュール

年齢	0歳～1歳(早期採苗群)												2歳～(早期採苗群)												3歳～				
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	
養殖工程	早期採苗群 沖出		中間育成(2年)										分散原盤割り		本養成												出荷		
			種苗生産		通常採苗群 沖出		① 中間育成(2年)						③ 分散原盤割り		② 本養成														
年齢	0～1歳(通常採苗群)						2歳～(通常採苗群)						3歳～																

2 イワガキの成長



①沖だし時



②沖だし後1年



③原盤割り時

沖だしから2年で原盤割りを行う。
原盤割り後はカゴ養殖を行う（本養成）。
カゴ養殖開始後出荷基準に達した貝から出荷を行う。
令和元年は2,255個の売り上げで約45万円の利益。
(令和元年度青年女性漁業者交流大会資料より)



1 スケジュール（垂下蓄養）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
養殖工程		① 漁獲と 沖出		② 垂下蓄養					③ 出荷			



①沖だし時

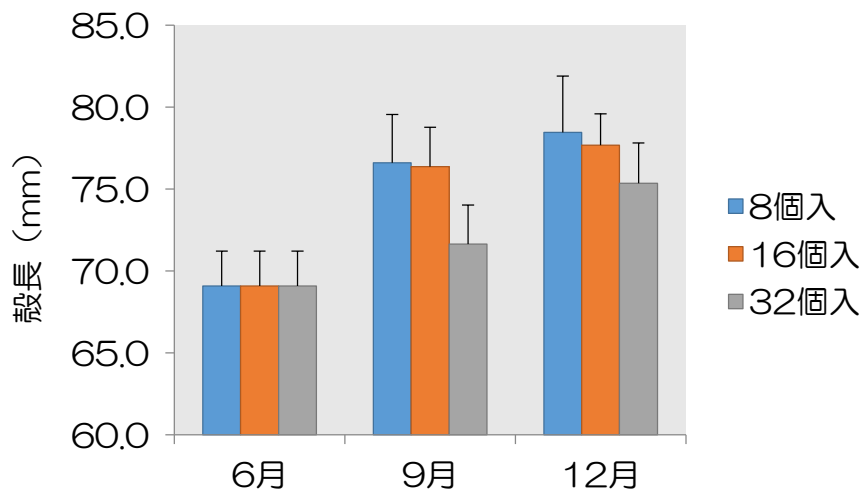


②垂下蓄養



③出荷

2 バカガイの成長



8個入り



16個入り



32個入り

低密度の方が成長が良いが、商品としてそれほど影響は無い。
春の漁獲時に比べて1.5~2倍の金額で販売。
(キロ単価1,200円~1,500円)



1 スケジュール

養殖工程	0齢		0齢										0齢	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
①	天然採苗 中間育成		本養成										出荷	
③	出荷		↑ 出荷と天然採苗開始は同時作業										天然採苗 中間育成	



①天然採苗



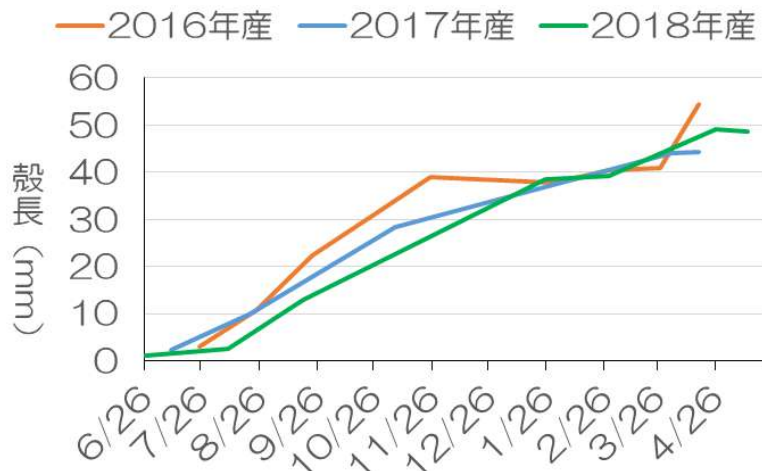
②本養成開始
ロープを伸ばす



③収穫作業

ロープからムラサキイガイを外した後、ロープはそのまま採苗器として使う。

2 ムラサキイガイの成長



ふるいによるサイズ分け
15mmのスリットで平均5cm
12mmのスリットで平均4cm
が選別される。
それ以下はラーメンだし用になる。

生鮮出荷が可能な平均殻長4cm
以上は約7割。

それに満たない約3割の貝は、
ラーメンだし用に冷凍される。



3 試算（令和元年度実績から算出）

収量（1年貝）

桁160mあたり5トンの収量計画

ロープ1本あたり16kg収獲

桁の設備費

640,000円

資材費（ロープ・おもり320本分）

705,920円

→ 筏・資材の減価償却費

269,184円/年（5年使用）

出荷費用（出荷にかかる人件費、貝毒検査込み）

1,500,410円/年

単年度経費

1,769,594円

収益分岐単価（規格外小サイズ込みの単価）

354円/kg

期待収益（規格外小サイズ込みの単価）

単価400円→ 230,406円

単価600円→ 730,406円

単価800円→ 2,230,406円



ムラサキイガイの洗浄



サイズ分け



袋づめ

ムラサキイガイの出荷作業

これら出荷作業にかかる人件費も経費に計上する。